

角田市でのオオハクチョウに関する状況報告（第 2 報）

宮城県角田市の溜池付近で死亡していたオオハクチョウ 2 羽の死骸のうち 1 羽から遺伝子検査結果 A 型インフルエンザウィルス陽性が報道されましたが、確定検査ではインフルエンザウィルスは分離されませんでした。

記

1. 経過

- 1) 平成 23 年 12 月 26 日、宮城県角田市豊室地内の市之丞溜池付近にてオオハクチョウが死んでいるとの通報があった。
- 2) 同日、午後 4 時頃、近くで死んでいた 1 羽とあわせて 2 羽を回収し、宮城県職員が直ちに簡易検査を実施したところ検査結果は陰性であった。
- 3) 翌 27 日に 2 羽の試料は焼却処分した。
- 4) 同 27 日に 2 羽の試料を(独)国立環境研究所へ送付した。
- 5) 1 月 4 日、遺伝子検査を実施したところ、2 羽のうち 1 羽から A 型インフルエンザウィルスの陽性反応が検出され、資料を確定検査の為、北海道大学へ送付する。
- 6) 1 月 5 日に国・宮城県で報道発表を行い、野鳥監視のパトロール強化と注意喚起、発見現場は消毒の上、立ち入り制限を講じた。
- 7) 1 月 10 日、確定検査の結果、インフルエンザウィルスは分離されなかった。

2. 防疫管理体制

- 1) 飼養衛生管理基準に基づく管理を継続致します。

以上